

男性職員 特集



リニューアルした広報誌『むつみラボ』第1号。特集テーマは、ずばり“男性職員”です。むつみホスピタルで働くスタッフは256名。そのうち66名、およそ4人に1人が男性です。女性が多いといわれる医療・福祉の職場ですが、精神科の現場では男性スタッフが力を発揮する場面が少なくありません。チームで支え合うむつみホスピタルの毎日を、男性たちも確かに支えています。今号では巻頭に3人の男性職員が本音で語り合う座談会を掲載。続く『僕たちのワークスタイル』では、5人の男性スタッフの仕事と休日の過ごし方を紹介。当院では、直近5年間で7人の男性職員が育児休業を取得するなど、毎年取得者が出ています。仕事も家庭もあきらめず“自分らしく働く男性スタッフのリアル”をどうぞご覧ください。



むつみホスピタル
採用サイトはこちら

秋山健太さん
[作業療法士・主任]
2018年入職

石川知也さん
[看護師・病棟主任]
2020年入職

久保宏稀さん
[看護師]
2024年入職

男性スタッフが本音で語る座談会

仕事も家庭も大切に—— むつみホスピタルの働き方

それぞれ異なる職場から転職し、むつみホスピタルで活躍する3人の男性スタッフ。入職の理由や育児休業の経験などを振り返りながら、職場環境について語り合ってもらいました。

「ここなら長く働ける」と 3人が決心した理由

秋山 前職で訪問看護に携わるうち「もう少し踏み込むことはできないか」と考えるようになりました。そんなときに知ったのが、むつみホスピタルのACT※。地域社会のなかで、利用者さんの自分らしい生活を支えていく考え方に惹かれました。多職種連携も魅力でした。

石川 秋山さんの入職のきっかけは

ACTだったんですか。僕は他院の救急外来にいたんです。精神疾患のある患者さんと接するうち、専門的に学びたいという意欲が強くなって。当時、結婚を控えていたこともあり、働き方を変えたくて転職先を探していたんですよ。知人から「むつみホスピタルは男性スタッフも育児休業を取得している」と聞き、子育てにも理解がある職場なんだ……と思い切って入職を決めました。

久保 仕事だけではなく、その先の

※ACT（Assertive Community Treatment）…精神障害を抱えている方が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように、さまざまな職種の専門家から構成されるチームで、支援を提供するプログラム。



家庭で過ごした時間そのものが、夫婦共通の経験になったことも印象的でしたね。

仕事と家庭の両立が より良い支援につながる

石川 家事や育児の経験は仕事にも良い影響を与えています。患者さんやそのご家族の生活を、以前よりも具体的に想像できるようになりました。自然と相手の立場に目が向くようになったと思います。

久保 僕はまだ育児休業を経験していませんが、自分の暮らしの充実は、本当に重要だと痛感しました。前職では勤務時間も長く、気の休まることがなかったんです。ここで働くようになって、オンとオフが切り替えやすくなりました。

石川 16時30分終業もうれしいですよ。子どもの保育園や幼稚園にお迎えも行けますし、帰宅してから



石川知也さん

家族と過ごす時間や自分の時間もしっかり取ることができます。

秋山 プライベートの時間が確保できると生活の質は向上しますからね。精神科の仕事は、自分自身に余裕がなければいけません。結果的に、それが患者さんへの手厚いサポートの力になると思っています。訪問看護でも、同性だからこそ信頼関係を築きやすいケースがありますから。

石川 確かに精神科の仕事では、男性スタッフがいて、安心してもらえる場面も少なくありません。それも誰かが一人だけで頑張るのではなく、男女問わずチームで支え合える環境があるおかげなのでしょう。

久保 そうですね。仕事と家庭のどちらかをあきらめるのではなく、どちらも大切にできる——。その積み重ねが、自分たちの働きやすさと患者さんへのより良い支援にもつながっていくと感じています。



秋山健太さん

生活まで考えられるかどうかは大切ですね。私の場合、キャリアのスタートは保健師でしたが、一人ひとりとじっくり向き合う看護がしたいと思って精神科を目指しました。でも、転職先の面接では「看護師になるのは難しい」と否定ばかり。むつみホスピタルだけが「今までの経験を生

かしてほしい」と肯定してくれたんです。本当にうれしかったですね。

イメージを変えてくれた 職場の環境と人間関係

石川 ここで働く前は、精神科病院にあまり良いイメージを持っていませんでした。暗くて閉鎖的な場所なのかなと思っていて……。お二人はどんな想像をしていましたか？

久保 私も同じでした。何も知らなかったんで、少し怖かったですね。

秋山 わかります。でも、むつみホスピタルは、そこを積極的に変えていこうとしている病院だと感じました。

石川 実際に働いてみると、患者さんも特別な存在ではなく、自分と同じ“悩みや苦しみを抱える人”だとわかってきて。それから「自分に何ができるだろう？」と、より真剣に

向き合うようになりました。

久保 職場の雰囲気だけではなく、人間関係も想像とまったく違いましたね。誰に質問しても嫌な顔をされることがないでしょう。とても相談がしやすい環境だと思いました。

秋山 部署や職種が違っていても、気軽に話しかけられる。そこも働きやすい理由の一つだと思います。

男性の育児休業は “特別なこと”ではない

石川 むつみホスピタルの働きやすさは、男性スタッフの育児休業の取りやすさにも表れている気がします。僕は6ヵ月間取得しましたが、前例もあったので、自分だけ特別という感覚はなかったですね。

秋山 私も3人の子どもの誕生に合わせて育児休業を取得しました。最



久保宏稀さん



僕たちのワークスタイル

仕事に向き合う時間も、家族と過ごす時間も、どちらも大切にしたい——。
そんな思いを実現している5人の男性スタッフの働き方をピックアップ!
日々の業務や休日の過ごし方などから、むつみホスピタルの魅力に迫ります。

OUR WORK STYLE

01

PROFILE

新居貴文さん

作業療法士(OT)・2015年入職

Q

仕事とプライベートの
両立は?

ANSWER

職場ではランニングクラブに所属しており、仲の良いメンバーとは休日にも遊びに行ったりすることも。とにかくスポーツが好きなので、野球観戦やスノーボード、登山や釣りなども満喫しています。

Q

今後の目標や
実現したいことは?

ANSWER

地域部門を経験することでサービスなどの理解を深め、それぞれの入院患者さんに合ったサポートを提案できるようになりたいです。自分らしく、人とのつながりを大切に、笑顔の絶えない職場で頑張ります!



笑顔の
絶えない
職場で
自分らしく!

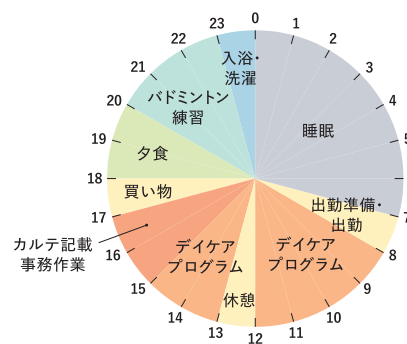
Q

日々の
業務内容は?

ANSWER

プログラムを通じて一人ひとりに寄り添いながら、日々の生活や社会交流の支援を行っています。利用者さんの笑顔や自信につながる瞬間に立ち会ったり、共に歩んでいくことができる点が大きなやりがいです。

TIME SCHEDULE

とある一日の
タイムスケジュール

OFF



野球は読売ジャイアンツのファン。小谷院長と一緒に試合観戦に行っています。

ON



ランニングクラブに所属。院内にある職員専用トレーニングルームで汗を流すことも。

Q

日々の
業務内容は?

ANSWER

精神科急性期病棟の看護師として、身の回りのお世話や困りごとの解決のサポートなど、患者さんが1日も早く退院できるように、さまざまな支援を行っています。治療を終えた方からの感謝の言葉が一番うれしいですね。

Q

今後の目標や
実現したいことは?

ANSWER

仕事上の目標は、健康に気をつけながら看護師の業務を継続していくこと。プライベートで実現したい夢は、全国47都道府県を制覇し、それぞれの観光名所でおいしいものを食べることです。



全国
47都道府県
の
おいしいものを
制覇!

OUR WORK STYLE

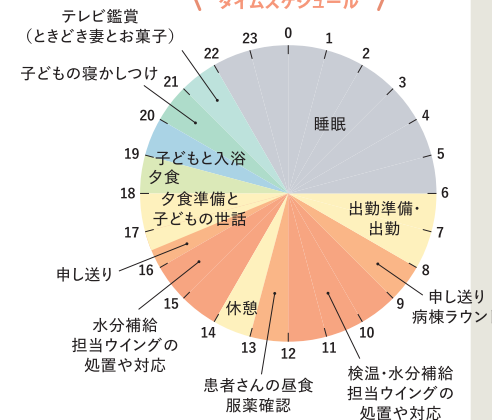
02

PROFILE

藤丸 剛さん

看護師・2020年入職

TIME SCHEDULE

とある一日の
タイムスケジュール

Q

今後の目標や
実現したいことは?

ANSWER

休日は家族で外出することが多いです。ときには生き物が好きな息子と一緒にカエルやバッタを採りに行ったりすることも。趣味はギターの演奏です。以前、病棟で開催したクリスマス会では弾き語りを披露しています。

OFF



BUMP OF CHICKENのファンで、ライブにも参戦。ギターの弾き語りも得意です。

ON



カンファレンスでは、担当する患者さんの現状を報告し、スタッフ間で共有します。



OUR WORK STYLE

03

PROFILE

小谷泰教さん

医師(むつみホスピタル院長)
2004年入職

Q

仕事とプライベートの
両立は?

ANSWER

そのときの忙しさにもよりますが、仕事とプライベートの両立はできているのではないかと思います。休日には長めの散歩やジョギングをすることが多いですね。野球をはじめとするスポーツ観戦や旅行も好きです。

Q

今後の目標や
実現したいことは?

ANSWER

後継者のほか、部下や若手スタッフの育成には力を入れていると考えています。患者さんには「生まれてきてよかった」、スタッフには「むつみホスピタルで働いてよかった」と思ってもらえるように、今後も努力を続けていきます。

OFF



野球が大好きで読売ジャイアンツのファンです。ソフトボール部の監督を長年務めています。

ON



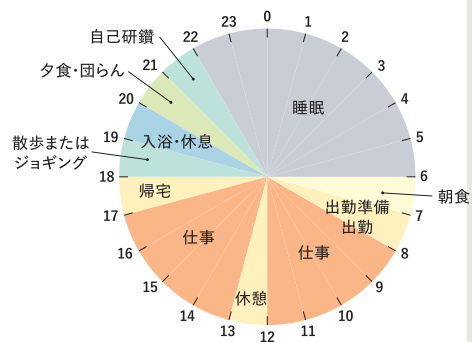
院内の職員用オープンブックシェルフには、さまざまなジャンルの興味深い本が揃っています。

Q

日々の
業務内容は?

ANSWER

むつみホスピタルの院長としては、当院のマネジメントをしつつ、スタッフの教育などが主な仕事となります。精神科医としては、患者さんやご家族との信頼関係を構築し“自分で自分を治す”お手伝いを心がけています。

TIME
SCHEDULEとある一日の
タイムスケジュール

Q

日々の
業務内容は?

ANSWER

男性の閉鎖病棟で勤務しています。それぞれの患者さんの1日が充実するように、要望に応じた看護を行うほか、医療的な行為や処置、コミュニケーション、記録など、療養の経過に関する対応も大切な業務の一つです。

Q

今後の目標や
実現したいことは?

ANSWER

家族のためにも、健康に気をつけつつ働いていきたいですね。子どもが巣立った後は、妻と二人で日本一周旅行へ出たいという目標があります。そのときはレクサスに乗っていけたら最高です(笑)。

OFF



この日は家族みんなでつくし動物園へ。子どもと一緒にシマウマを眺めました。

ON



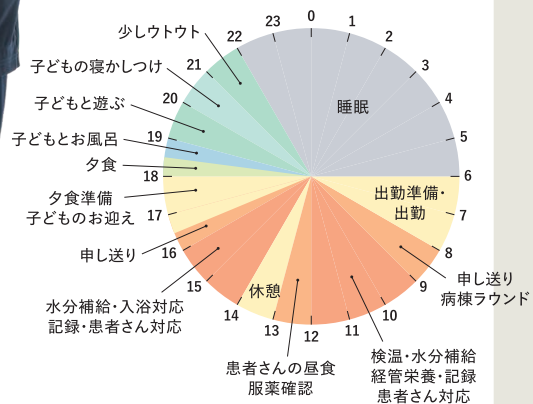
ときには来院した患者さんにお声がけすることも。何でも相談してほしいと思います。

OUR WORK STYLE

04

PROFILE

鳴滝勇太さん

看護師(看護主任)
2021年入職TIME
SCHEDULEとある一日の
タイムスケジュール

Q

仕事とプライベートの
両立は?

ANSWER

看護主任という役職を拝命していますが、ありがたいことに定時で退勤できる日が大半です。休日の楽しみは家族との時間。妻とランチに出かけたり、子どもと遊びに行ったり……。おかげさまでプライベートも充実しています。



OUR WORK STYLE 05

PROFILE

勢見圭佑さん

精神保健福祉士 (PSW)
2025年入職

Q

仕事とプライベートの
両立は？

ANSWER

仕事も充実していますし、ワークライフバランスは整っていると思います。終業が16時30分と早い時間ですので、前職では不可能だった平日の家事や子どもと関わる時間をしっかり確保できる点がありがたいです。

Q

今後の目標や
実現したいことは？

ANSWER

新しく覚えていきたいことはたくさんありますが、井上和俊医師を中心に、当院で長年続いている独自の依存症回復プログラム『エンジョイライフミーティング』を、もっと広めていきたいと考えています。



Q

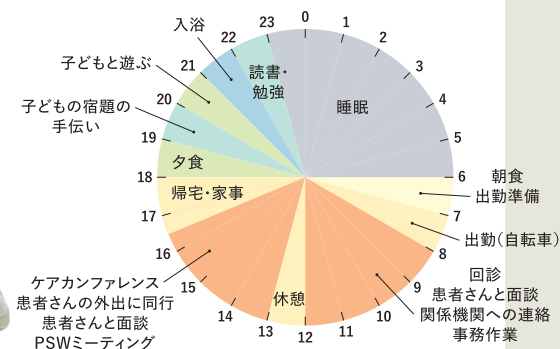
日々の
業務内容は？

ANSWER

精神保健福祉士として、精神科救急病棟で患者さんの退院支援を担当しています。社会復帰後の地域での生活に向けて、サービスの利用に必要な行政手続きをはじめ、ご家族や事業所などへの連絡・調整が主な業務内容です。

当院独自の
依存症回復
プログラムを
広めたい！

TIME SCHEDULE とある一日の タイムスケジュール



OFF



マラソン部で『とくしまマラソン』や淡路島の『玉ネギリレーマラソン』に出場しました。

ON



外来カウンターの相談窓口で利用者さんに笑顔で対応。これも大切な業務の一つです。



MUTSUMI TOPICS

むつみトピックス

日々、さまざまな取り組みや出来事が生まれているむつみホスピタル。ここでは、院内外の特筆すべき活動やイベントなど、当院らしさが感じられるトピックスをお伝えします。

また、あの人が学んでる

～むつみホスピタル版“図書カード” 学習記録アプリ【トモナ】～

昔の図書室の貸出カードを覚えていませんか？本の裏表紙のポケットに差さった一枚のカードに、これまで借りた人の名前がずらり。スタジオジブリの映画『耳をすませば』では、少女が図書カードのなかに何度も同じ名前を見つけて、まだ見ぬ相手に胸をときめかせます。またこの人だ。この人、こんな本まで読んでるんだ――。

学習記録アプリ【トモナ】は、いわば、むつみホスピタル版の“図書カード”です。研修に参加したり、本を読んだ職員が「概要」「学びや気づき」「業務への活用」「提言やアクションプラン」を記録すると、部署や職種を越えて、その投稿を全職員が読むことができます。

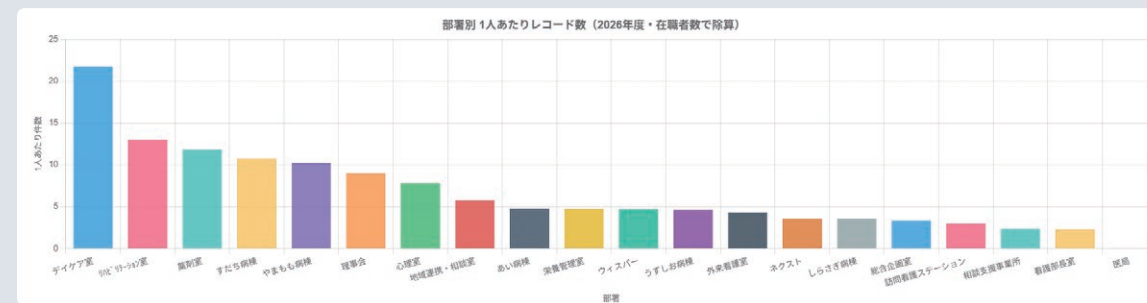
開いてみれば、隣の部署の先輩が意外な分野を勉強していたり、いつもの上司が研修でそんなことを考えていたのかと驚いたり。院長や理事長が何を学び、何を考えているのかまで読めてしまいます。「また、あの人が学んでる」――。そ

の小さな発見が「次は自分も」という気持ちに火をつけます。

ここで少しだけ、まじめな話を。医療の知識と技術は日進月歩で、職員の学びは、患者さんに届く医療の質に直結します。ところが、総務省の調査によれば、日本の社会人が学習・自己啓発に充てる時間は1日平均わずか13分。国際調査では、社外での学習を「特に何もしていない」人が約半数と、世界でも最下位クラスという結果さえあります。

学ばないことが“ふつう”の日本の社会、しかし、医療の世界で、それが許されるわけがありません。むつみホスピタルは、今年度の事業計画の柱に「学習」と「DX」を掲げています。紙の記録用紙【私の研修記録】をアプリに置き換えた【トモナ】は、その二つを一つのかたちにした仕組みです。部署別の投稿数は月ごとに集計・発表され、読書や執筆など、研修以外の学びも気軽に記録できます。

【トモナ】の名前の由来は「共に学ぶ」。一人の学びをみんなの学びに変えて、患者さんや利用者さんへ還元していく。貸出カードの名前をたどるように、誰かの学びが誰かの背中を押す――。そんな循環を、これからも育てていきます。

実際の【トモナ】入力画面の一部と部署別1人あたりのレコード数



子どものこころの医療、その最前線にふれる

4月22日(水)に、東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野教授の小池進介先生をむつみホスピタルへお招きし、スタッフを対象とした特別講演会を実施しました。そのレポートをお届けします。



小池進介氏

こいけ・しんすけ／精神科医。2004年東京大学医学部医学科卒業。2012年同大学院医学系研究科博士課程修了。東京大学学生相談ネットワーク本部講師、英国ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)での研究員、東京大学大学院総合文化研究科准教授、同医学系研究科精神医学分野准教授などを経て、2025年11月より東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野／東京大学医学部附属病院こころの発達診療部教授。専門は脳画像研究と精神疾患のスティグマ研究。大規模脳MRIデータの収集・解析による精神疾患の解明に取り組む。
<https://kokoro.m.u-tokyo.ac.jp>

2025年11月、東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野／東京大学医学部附属病院こころの発達診療部の教授に就任された小池進介先生。井上秀之理事長とは同い年で、同じ医局、同じ研究室で研鑽を積んだ間柄です。そのご縁から当院での特別講演会が実現しました。

演題は『東京大学こころの発達医学分野／こころの発達診療部における臨床・研究・教育』。こころの発達診療部は、1936年に東京帝国大学医学部脳研究室に児童部が置かれたことに源流を持つ、わが国の児童精神医学を代表する診療・研究拠点です。

講演では、自閉スペクトラム症(ASD)や注意欠如多動症(ADHD)を中心に、年間約260名の初診患者さんを受け入れる診療体制をはじめ、初診時から長期にわたって経過を追いかけるデータベース研究。全国の大学・研究機関と連携した大規模な脳MRI研究。そして、子どもの

こころの専門医を育てる教育プログラムなど、臨床・研究・教育、それぞれの最前線を豊富なデータとともにご紹介いただきました。

なかでも印象的だったのは、日々の診療で得られる情報を丁寧に積み重ね、科学の言葉で子どものこころの発達を解き明かそうとする姿勢です。小池先生は脳画像研究と併せて、精神疾患への偏見(スティグマ)の研究にも長年取り組まれており、講演は社会的な課題となっている思春期へのケアの必要性や小児精神科医療の今後の展望にも及びました。

当日は医師をはじめ、看護師やメディカルなど、職種を問わず多くの職員が参加し、熱心に聴き入っていました。当院でもこどもの発達障害や児童思春期の診療に力を入れています。最先端の知見にふれた今回の学びを、日々の診療とケアに生かし、子どもから大人まで、地域のこころの健康を支えてまいります。



立ち止まって 心を俯瞰する 大切さ

5月1日(金)に、認知療法・認知行動療法の第一人者である精神科医、大野 裕先生をむつみホスピタルへお招きし、スタッフを対象とした特別研修会を実施しました。そのレポートをお届けします。



大野 裕氏

おおの・ゆたか／精神科医。国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター顧問、一般社団法人認知行動療法研修開発センター理事長。1950年愛媛県生まれ。慶應義塾大学教授(保健管理センター)を務めた後、2011年6月より、独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センターセンター長、顧問を歴任。学会の要職、著書多数。
<https://www.cbtjp.net>

近年、ストレスへの対処や心のバランスを整える方法として、認知療法・認知行動療法が注目されています。その第一人者であり、Academy of Cognitive Therapy設立フェロー・公認スーパーバイザー、日本認知療法・認知行動療法学会理事長などを務める大野 裕先生を講師に迎え、特別研修会を開催しました。当院の外来で主にこどもの発達障害や児童思春期の診療を担当する六反一仁医師とのご縁から実現した貴重な研修です。医師をはじめ、看護師やメディカルなど、多くの職員が参加し、認知療法・認知行動療法への理解を深める機会となりました。

認知療法・認知行動療法では、心の不調は個人の性格の問題ではなく、人が生き延びるために備わっている“心のシステム”が過剰に働いた結果だと考えます。「自分はダメなんだ」「みんなが私を嫌っている」「この先に良いことなんてない」といっ

た悲観的な捉え方も、その人なりに身につけてきた“作戦=認知”の一つです。今回の講義では、これまでの“作戦”が今の自分に役立っているかを見直し、現在の生活をより過ごしやすい新しい“作戦”を、実践と検証を繰り返しながら身につけていく考え方について学びました。

心の調子が悪くなると、どうしても視野が狭くなりがちです。そんなときこそ、一度立ち止まって状況全体を俯瞰し「今、自分にできること」を一つずつ実践していく。その姿勢こそが大切であると、大野先生はわかりやすい言葉で伝えてくださいました。この考え方は患者さんへの支援だけでなく、私たち医療者自身のセルフケアにも役立つものです。

当院では今後も職種の垣根を越えて学びを深め、専門性を高めながら、より質の高い医療・看護・支援を患者さんへ提供できる体制づくりを進めてまいります。



／はじめまして！／

私たちが新しいスタッフです。

NEW FACE

2026年、医師や看護師、コメディカルなど、15名の新入職員がむつみホスピタルの一員となりました。患者さんや利用者さんに寄り添う医療・福祉を目指し、日々学びながら成長を続ける新しい仲間をご紹介します。

Inouchi Megumi



猪内恵美さん

職種：看護師

所属：しらさぎ病棟

苦しいときも自分の状況をユーモアに変える前向きな性格。タスク管理や時短料理が得意です！トレーニングやピラティス、K-POPにも関心があります。

Asano Kyosuke



浅野喬介さん

職種：心理士

所属：心理室

徳島県藍住町出身です。兵庫県で大学時代を過ごしました。マイペースで穏やかな性格。料理（麻婆豆腐）や掃除、バドミントンなどが得意です。

Ogawa Yuma



小川由真さん

職種：看護師

所属：しらさぎ病棟

マイペースで、お調子者な一面があります（少し忘れっぽいところも……）。今はバイクやVRゲーム、それから家庭菜園にも関心を持っています。

Miyagawa Soyo



宮川初葉さん

職種：看護師

所属：うずしお病棟

東京都小金井市の出身です。やると決めたことには一生懸命取り組みます。得意なのはダイビング。阿波踊りやおいしいコーヒーなどに興味があります。

Miyahira Yuka



宮平優佳さん

職種：看護師

所属：あい病棟

生まれも育ちも沖縄です。徳島は大学時代から。周囲への気配りを大切にしています。節約するのが好き。休日はガチャガチャ巡りに動んでいます。

Taniuchi Yui



谷内結衣さん

職種：調理師

所属：栄養管理室

物事に集中して取り組むタイプで、ダンスや細かい作業が得意です。徳島ガンバロウズや徳島ヴォルティスなど、地元スポーツチームに興味があります。

Ozaki Shiho



尾崎志帆さん

職種：看護師

所属：すだち病棟

ルールや約束を大切に、自分の理想を持って物事に向き合う性格です。人の経験談を聞くのが好き。徳島の伝統文化やお遍路、アニメに関心があります。

松浦知也さん

職種：看護師

所属：しらさぎ病棟

徳島県美馬市出身。一度決めたことは最後までやり遂げる性格です。卓球が得意で社会人チームに所属。高校野球も好きで、毎年甲子園に遠征します！

Tanaka Riho



田中里穂さん

職種：看護師

所属：しらさぎ病棟

人にやさしく接することを一番大切にしています。メイクや美容、旅行やドライブのほか、UFOキャッチャーやガチャガチャ、香水にも関心があります。

Matsuura Tomoya



Hosokawa Ageha



細川安華羽さん

職種：看護師

所属：やまもも病棟

内気であがり症ですが、忍耐強い性格です。実家でずっと仲良しの家族と一緒に暮らしています。最近、興味があるのは筋トレと手芸。水泳が得意です。

Higuchi Runa



樋口瑠南さん

職種：薬剤師

所属：薬剤室

生まれも育ちも徳島です。話してみたい人に声をかけたり、道を覚えることが得意。旅行やNISA、マラソンやガチャガチャなどに興味があります。

Kudou Nao



工藤菜緒さん

職種：作業療法士

所属：リハビリテーション室

平和主義で世話好き。人の話を聞くのが好き。幼い頃から和楽器に親しみ、18歳で師範免許を取得しました。ガチャガチャや阿波踊りも好きです！

Nishimoto Haruka



西本陽香さん

職種：作業療法士

所属：リハビリテーション室

出身は広島県。思い立ったらすぐ行動に移すことが得意。一度集中すると何時間でも作業に没頭。ライブや旅行、カフェ巡り、猫、日本酒が好きです。

Endo Yukiko



遠藤由紀子さん

職種：医師

所属：医局

得意なのは、児童思春期の子どもたちと一緒に遊ぶこと。愛する猫と暮らしながら、ニホンミツバチを飼育し、自家製の蜂蜜づくりを楽しんでいます。

Okazaki Megumi



岡崎 恵さん

職種：精神保健福祉士

所属：地域連携・相談室

じっとしているよりも行動するのが好きなタイプです。Webメディアでの情報収集やソーシャルフットボールの支援活動などに取り組んでいます。

学び、つながる。

共に歩む。

むつみ 新人研修 合宿

4月17日(金)18日(土)の2日間、新入職員
同士の結束を深める新人研修合宿を開催し
ました。スローガンは「自分らしく、むつみら
しく。～新しい風を、みんなの力に～」今年
も企画・運営は新入職員自身が担当し、共に
働く仲間としての絆を育みました。

SCHEDULE

DAY 1 4月17日(金)

午前中	通常業務
13:00	病院に集合
13:10	病院周辺の清掃活動 (お揃いのむつみTシャツ)
15:00	バーベキュー班は買い出し、サッカー班は片 付けと翌日の準備
17:00	月見ヶ丘海浜公園に到着、バーベキュー準備
18:00	バーベキュー開始
19:30	ピンゴゲーム(司会是新入職員の宮川さん)
21:00	終了(公園内のコテージに宿泊)

DAY 2 4月18日(土)

9:20	ポカリスエットスタジアムに集合、受付案内
10:20	むつみホスピタルサッカー教室(徳島ヴォル ティス戦の前座として開催・参加者約50名)
11:20	閉会式
14:00	徳島ヴォルティスのホームゲームを観戦 (キックオフ)
16:00	試合終了、反省会

地域のなかで、
共に働くために

新人研修をここまでしっか
り受けられる医療機関は少
ないと思います。イベントの
準備も、チームワークや事
前の想定が重要だとよくわ
かりました。

岡崎 恵さん(地域連携・相談室)

日本の精神科医療は入院を中心
に発展し、病院の多くは町外れに置
かれ、壁とフェンスが病院と地域と
を隔ててきました。そのなかで働く
スタッフもまた、知らず知らずのう
ちに病院に籠もり、自分たちが地域
のなかに在ることを忘れがちになり
ます。

患者さんの暮らしは地域にあり、
退院した後の人生も地域で続いて
いくのに、支える側が地域を知らない
——。精神科医療が長く抱えて

きた大きな矛盾です。むつみホスピ
タルは、この矛盾に正面から向き
合ってきました。今では地域と隔て
ていた壁やフェンスを取り払い、構
造としては誰もが行き交える、地域
に開かれた病院を実現。しかし、建
物を開くだけでは十分ではありません。
人が出ていかなければ、病院は
また籠もってしまうでしょう。その
ため、当院は ACT や訪問看護をは
じめ、スタッフが自ら地域へ出てい
く活動(アウトリーチ)に力を入れ

ています。

新人研修合宿は、入職の一番最初
に、この考え方を体験する 2 日間で
す。初日は、お揃いのむつみ T シャ
ツで病院周辺の清掃活動。道ばたの
ゴミを拾いながら、自分たちの職場
が地域のまんなかになることを肌で
感じます。2 日目は、徳島ヴォルティ
スと共催する障害者サッカーの活
動。ピッチの上では、患者さんは“支
援の対象”ではなく、同じ地域に暮
らし、同じボールを追いかける住人

です。職場ではない場所で患者さん
と出会い直す。この体験こそ、地域
で暮らしを支えるこれからの精神科
医療従事者にとって、欠かせない資
質になると私たちは考えています。
ボランティア清掃で汗を流し、バー
ベキューを囲み、コテージに泊まる。
障害者サッカーの準備や活動を通し
て、地域貢献や障害者スポーツへの
理解を深める——。この2日間で“共
に働く”意味を確かめ合う最初の一
歩です。



合宿を通して多職種
の同期との連帯感が
深まりました。人との
出会いを大切に、皆
で助け合いながら、
病院に新しい風を吹
かせられるように頑
張ります。

松浦知也さん
(しらさぎ病棟)

準備から反省会まで
頑張るなか、チーム
ワークの大切さを学
びました。得た知識
や経験を今後の糧と
し、地域にも目を向
けながら成長してい
きます。

尾崎志帆さん
(すだち病棟)



イベントの準備やボランティ
ア活動から、協力する大切
さや地域とのつながりを実
感しました。この経験を薬剤
師の業務にも生かしていき
たいです。

樋口瑠南さん(薬剤室)



Ceremony

開院記念式典



感謝をつなぎ 未来へ歩む一日

今年で法人設立67周年を迎えたむつみホスピタルは、1959年4月16日に開院しました。当院では、この記念すべき日を、職員全員でお祝いするため、2002年より毎年、開院記念式典を執り行っています。

式典では、井上秀之理事長からの挨拶に続き、永年勤続者への感謝の気持ちを込め、10年勤続表彰、20年勤続表彰、むつみInspire賞[※]の表彰を行いました。



むつみInspire賞

2023年より、むつみホスピタルで共に働くスタッフの行動や働きぶりを称え合い、広めていくための活動『むつみInspire』をスタート。翌2024年より、年間を通じて素晴らしい行動や目覚ましい働きを見せたスタッフを、むつみInspire賞として表彰している。

特別祝い膳



記念の日を彩る 特別な味わい

開院記念日である4月16日（木）には、むつみホスピタル栄養管理室による心尽くしの特別祝い膳が用意されました。徳島市秋田町にある日本料理の名店『かま田』監修のもと、一品一品を丁寧に調理。開院記念日という佳き日にふさわしく、こだわりを詰め込んだ華やかな食事は、多くの職員から好評を博しました。

今回の特別祝い膳のなかから「あさりしんじょう（お椀）」のレシピを公開します。「しんじょう（しんじょ・真薯・真丈）」とは、海老や蟹、魚の白身などをすりつぶしたものに、山芋や卵白、だしなどを加えて味をつけ、調理した日本料理の一つです。ぜひ、ご家庭でも味わってみてください。



Recipe

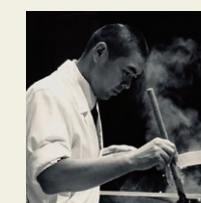
あさりしんじょう（お椀）

材料（4人分）

- あさりむき身 55g
- 白身魚のすり身（タラなど） 55g
- 卵黄 1/3個分
- サラダオイル 16cc
- 長芋（すりおろし） 27g
- 一番だし 少々
- 三つ葉などの青み 少々
- 吸い地 人数分

作り方

- ①ボイルして水気を切ったあさを粗みじん切りにする。
- ②1と白身魚のすり身、一番だし少々を入れ、優しく混ぜ合わせる。
- ③卵黄にサラダオイルを少しずつ加え、白くなるまで混ぜ合わせる。
- ④2に3を加え、長芋（すりおろし）と混ぜ合わせる。
- ⑤4を四等分してサランラップで丸く包み、形を整えて輪ゴムでしっかり止める。
- ⑥蒸し器に入れて10分ほど蒸す。
- ⑦蒸し上がったたら、きれいにサランラップから外す。
- ⑧あさりしんじょうと三つ葉などの青みをお椀に盛り付ける。熱い吸い地を張って完成。



かま田 鎌田智也氏

かまだ・ともや／徳島市の繁華街である秋田町にある『かま田』。地元のグルメはもちろん、県外からの観光客からも評判が高い日本料理の名店です。徳島産を中心に選りすぐりの食材をそろえ、四季折々の繊細な味わいを、店主・鎌田智也さんが確かな腕で表現。むつみホスピタル栄養管理室では、2020年から行事食の監修にご協力いただいています。

むつみホスピタル 栄養管理室

むつみホスピタル栄養管理室は、一人ひとりの患者さんに合わせた食事で治療をサポートしています。普段の給食に加えて、健康で美しい体を目指した“健美食”をはじめ、店の雰囲気や味わいを味わっていただく“外食再現メニュー”や調理員が考案したレシピによる“調理員の一品”など、多彩なイベント食を提供。食事によっておだやかな心と健康的な体をつくるお手伝いを行い、一人でも多くの方の社会復帰を目指しています。